北海道建築士
HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2021.12.No292
12月号

目次

2021年度第７期専門職育成講座報告（中間）……1
西から東から「札幌のまち」……4
全国女性建築士連絡協議会報告……5
女性の窓……6
［No.103 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会］
Coffee Break……7
information……8

URL　https://www.h-ab.com/

― 北海道ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座 ―

2021年度第７期専門職育成講座報告（中間）

ヘリテージマネージャー特別委員会 委員長　川　原　昌　彦（札幌支部）

今期第７期の講座は、昨年に引き続きコロナ禍の中での開催となり、例年より３ヶ月遅れの８月21日開始の12月４日終了となっています。現段階（11月初）では全13回の講座の内、第10回の講座を終えた段階で、これ以降の講座では受講生による班が調査した「私が見つけた文化財」の発表と、考査等が控えています。講座の途中経過としての報告とその他に今期に取り組んだ事業について紹介します。

北海道ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座

現在までの受講実績

北海道の講座独自の大きな特徴としては、マネージャー（HM）コースの受講資格に建築士・施工管理技士の他に学芸員が含まれることと、一般市民を対象としたコーディネーター（HC）コースがあることです。グループワークでは建設技術者だけでは得られづらい多様な相乗効果が生まれています。今期は計14名が受講されており、仮にその皆さんが修了し登録されると計183名となる見込みとなります。

期	年	HM	HC	計（人）
第１期	H26年	27	6	33
第２期	H27年	33	15	48
第３期	H28年	15	10	25
第４期	H29年	11	9	20
第５期	2019年	20	5	25
第６期	2020年	14	4	18
全体計（人）		120	49	169
第７期受講生数	2021年	(8)	(6)	(14)
今期見込全体計（人）		(128)	(55)	(183)

※全国のHMは、計5,082人（2021年３月現在）

今期のコロナ対策

実測調査を行う実習講義を除いて、講座は会場での講義とZoomを用いたオンラインを同時に行うハイブリッド講義で行いました。今期はオンラインの音声のクオリティを上げるため、各会場の音響設備を事前に調べ、講座当日はその音響設備とPCを直接つなぎ、Zoomで視聴されている受講生に会場と同程度の音質の音声をお届けしています。

講義の様子（講師 山内 一男 氏）

ヘリテージアドバイザー研修会

全国のアドバイザー（HC・HMにアドバイスできる専門家等）をお招きし、HM・HCに様々な歴史的建造物および周辺知識について周知する機会として開催するもので、今期は８月28日に「熊本における法第３条適用除外の紹介・震災と歴史的建造物について」と題し、講師に伊東龍一氏（熊本大学大学院教授/熊本県建築士会会長）と山川満清氏（熊本県ヘリテージマネージャー会議代表/熊本県建築士会まちづくり委員長）のお二方を講師に完全オンラインで開催しました。参加者数は24名でした。

フォローアップ講習会

HM・HCの資質・技術的能力の向上を目的とし、さらに、道内各地の歴史的建造物や歴史やまちづくりを知る機会、交流の場等として開催されています。今期は10月30日、31日に第１回目として、美幌で開催し、当地の歴史的建造物の見学と、講演では講師には松田功 氏（NPO法人 オホーツク自然・文化ネットワーク）をお招きし、オホーツクの自然と文化財についてご説明いただきました。

今後は、11月20日、21日「普及啓発事業 in 帯広」として登録文化財の登録に関するフォーラム、12月11日には、第２回フォローアップ講習会 in 小樽として、重要文化財旧日本郵船㈱小樽支店の保存修理工事の見学・講演が開催されます。

次頁からは、講座講師の中からHMであり建築士会会員としても活躍されている方々を紹介します。

歴史的建造物調査実習

北海道ヘリテージマネージャー委員会
関川　修司（北広島支部）

北海道ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座には必須の講義として「歴史的建造物調査実習」があります。毎回２班に分けて行います。

大抵建築を知っている人、知らない人に分けています。講座の目的は、歴史的建造物を登録文化財にし、まちづくりに寄与しようということです。

講座は、開拓の村で行われておりました。これは時代と種類が多く集まっているからです。残念ながら今年は琴似神社にお願いして、横の屯田兵屋をお借りしました。講座の初めに、建築士会が行う文化財登録の目的、登録に必要な書類、建築物調査に必要な器具の説明などを行っています。

建物を登録文化財にしようとするとき、一人で行うのは難しく、大抵は複数の人が関わり合い、建築に詳しい人、歴史や民俗に詳しい人等の知識が必要であることを伝えています。

歴史的建造物に不拘、建造物の実測調査は、短時間で習得できるものではないので、講座では、実測調査に必要な器具類（モノサシについては、計量法により１級品の使用）の説明、検めて登録文化財の申請に必要な書類、併せて重要文化財（建造物）耐震予備診断要領の配布と説明を行っています。

そして講座の中では、建築用語の解説、床の間があれば「座右の銘」の言葉の由来、囲炉裏があれば「末（松）代（鯛）まで喰（桑）わし候」と食べ物への感謝の気持ちなど、何とか楽しくなるように説明しています。

この講義は１日で終わるため、短時間で終えられる建物を選んでいます。それが３間半×５間の屯田兵屋です。土間と板の間と畳二間の簡単な間取りです。知っている人がサラっと言ってしまいますが、知らない人には知らないことがあります。

今年もありました、「柾」です。説明が難しかったです。

琴似神社の参集殿で説明する小野寺、関川

測りながら建築を楽しむ

北海道ヘリテージマネージャー
小野寺　一彦（十勝支部）

北海道ヘリテージ・マネージメント専門職育成講座を受講する人は、必ずしも建築関係者とは限らず、市民を対象としたコーディネーターという北海道の独自の講座制度があります。

本講座の講義の一つである歴史的建造物の実測調査実習では、受講生を二つの班に分け、建築士等の建築技術者以外の方で実測図はもとより、平面図のようなものの作図すら経験のない人や、建築士会の会員であっても実測図は描いたことがない。という方を担当し一緒に実測図を描く実習を進めております。

そんな中で心がけている事は、測りながら建築を楽しみ、その魅力を伝えることです。

建築関係者ではないということは、建築用語が通じないという問題が生じてきます。そこで最初に伝えることは、建築用材は、その使う位置によって名称が異なると言った、我々にとってはごく当たり前の話から始めます。

柱や土台という言葉はほとんどの皆さんがご存知です。現在の北海道の住宅で主に使われている柱材の寸法は、３寸５分角（105mm×105mm）だとなると通じなくなり、さらにこの寸法は本州にいくと４寸角（120mm×120mm）になると皆さん驚かれます。さらに木造建築の寸法は部材寸法からきており、今でも尺寸法が基にあるのでメートル寸法だと微妙に合わないこと。使う位置により同じ部材でも名称が異なることを話します。

土台・柱から始まり、胴差という上階と下階の間にいれ上階の床を支える部材や、建物の長手方向に架ける棟木と同じ方向の部材を桁、屋根を支える桁から棟木までの間の部材を母屋といい、その屋根を構成する部材を受ける柱を小屋束（束）などと、語源をたとえながら、名称が異なる部材を現場で確認しながら、実測と作図を行います。

そして寸法は全て計らなくても、柱間の寸法を基準に描くことや、柱は必ずしも四角で描かなくても良いことや、窓や出入り口の描き方の違いなども一緒に描き加えます。

建築を楽しむために、外壁の張り方や柱の見える壁・見えない壁、そこにある建築の仕掛けや何故このような形になったかなどの意味を考えてもらいながら作業を進め、ほとんどの人がラフな平面図を描き上げます。

綺麗に描こうとせず、建築を楽しみながら描けるということを体験してもらうことが実習に必要なことだと考えております。

実測調査実習の様子（説明を受ける受講生）

歴史を活かしたまちづくりの取組

NPO法人はこだて街なかプロジェクト理事長
山内　一男（函館支部）

函館の「歴史的建造物を活かし地域の魅力を生かす」まちづくり活動を続けている、NPO法人はこだて街なかプロジェクトの取組事例をお話します。私は函館市西部地区の旧市街地の繁華街・十字街銀座通りに建つ祖父のホテルで生まれ、祖父から大正時代の東京以北の最大都市・函館の繁栄のまちの様子を聞いて育ちました。繁栄を支え歴史の証の建物は、所有者を替え用途を変え歴史を繋いで使われていました。

学生を卒業後東京の設計事務所に勤めた私は、函館や他の町で、まちなみや歴史的建物の毀損が開発の目的の陰で始まったことに疑問を感じていました。仲間と古い建物を残したまちづくりも開発の手法の一つだとして、故郷・函館に情報発信したことがまちづくりに係わる切っ掛けでした。

建築史家の村松貞次郎東京大学教授から「まちには町医者的建築家が必要です」と、葉書を頂いたこの言葉は、私の活動の原点だと考えています。

函館に戻り西部地区のまちづくりに係わることが出来たのは、東京の私たちの活動を応援して戴いた足達富士夫北海道大学教授です。西部地区の建物との関りは、水回りや部屋の改修相談など、大工さんに頼むような仕事から始まります。西部地区は、バブル経済や地上げ、マンションと景観、人口減と空き家・空き地、未利用地問題など地方都市の課題に直面していました。その時、行政とまちづくり関係者と市民が夕方集まり課題を話し合い、問題点抽出などの研究会が立ち上がりました。会は報告書を作成し終了します。勉強会を引き継いだのがこのNPO法人でした。

まちづくりの主体は市民との意識を取り戻す「から地に花を」の取組は、空き地に住民がデザインした花壇を一緒に造り、まちなみを自分たちの手で変化させる体験をします。西部地区の空き家・空き地の利用や流通相談を毎週土曜日に開催し、移住者の利用に繋げました。歴史的公共施設の利用促進を図るため調査・提案をして、耐震改修とバリアフリーを実現させます。旧ロシア領事館は利用促進の調査や提案をし、民間事業者の買取り利活用提案へと繋がり、市民の思いが結果に反映されるよう注視する状況になりました。

函館市は歴史的建物の町並み保全の制度を作りました。しかし、維持の技術者を育てる仕組みは職人の団体に任せている状態です。高齢化、人手不足で伝統的建築技術者を育てることが難しい状況を知り、技術研修会を開催し建物の維持やまちなみを育てる活動を、市民との協働モデル事業として取組み始め、3年目をむかえます。

歴史的に古い木造建築物は、重要文化財でない限り未来に繋げて行くのは難しい状況が来ると思います。市指定歴史的建物保全データづくりを継続委託し実施しながら、市指定の歴史的建物は市民の財産と考えるならば、その財産は市民が共有する存在でなければならないと考えています。所有者の許可を得、調査建物を記録として残すだけではなく、まちと建物、暮らした人の話を「はこだて　たてものがたり」として、今、仲間たちとまちづくり出版に歩み出し始めました。

育成講座を支える建築士たち

情報委員会副委員長
早川　陽子（小樽支部）

「ヘリマネ講座」と親しみを持って呼ばれているこの講座、コロナ禍が続き各委員会活動が停滞の中、今年も開講されました。建築士会はヘリテージマネージャー特別委員会の委員７名で担当しています。全13講座の会場受付、講義のサポート（録画、ZOOM）等、さらに２講座は第１期生の会員が講師として活躍しています。その様子を受講生の感想、意見等を交え紹介します。

○受講生の動機

歴史的建造物の存続価値の発見、保存への取り組みを学ぶことで業務に役立てたい、と同時に資格の取得も大きな魅力のようです。

○歴史的建造物、実測

初めての方が多く、色々な感想がありました。

・建物の建築史と共に構造や部分名称を知った。
・小さなテクニック、モジュールを楽しく学べた。
・制約ある時間内で丁寧に教えていただいた。

実測と同時に建物の歴史的背景、建築材料や施工方法、空間の使われ方等々多岐に渡る解説は講師が建築士ならでは、と好評でした。

○まちづくり事例報告

建築士が中心となり地域住民と共にまちづくりに取り組む姿、現在進行形の講義は説得力があり皆さん興味深々でした。行政職の方の講座からは町の力、再生から積極的な活用の知恵や手法の重要性にうなずく姿も。

建築士×行政の組合わせ講座は受講者に新たな視点もたらしたようです。

・歴史を生かした「まちの財産」。
・「住民が主役」自ら作り上げてゆく大切さ。
・「職人の人材育成」の取り組み。

○HM特別委員会のみなさんのサポート

年間を通して講座関連の研修会や講座等、修了生にも情報が提供されています。まさにフル活動。取材を通してHM委員会の活躍の様子をお伝えしました。

取材日11/13(土)の講座は５名の委員が担当

修了式は12月。受講生もHM委員会にとっても実りの時を迎えます。

情報委員会　片岡　哲二（札幌支部）

『建築士の日のポスター作成』

例年、札幌支部の『建築士の日ビールパーティー』には建築士と一般の方、併せて600人以上の方に参加して頂き、建築士と建築士の日について知って頂く貴重な機会となっていました。

しかしながら昨年、今年とコロナ禍の影響でやむなくパーティーは２年連続で中止となり、札幌支部では７月１日の建築士の日を知って頂く何らかの事業を行いたいと松本副支部長を中心に検討をしておりました。

「建築士の日」のポスターを作成しSNSで発信してアピールすることとなり、デザインは菊地副支部長が担当しました。配色は札幌の景観色を採用して４種類作成しました。

札幌市、北海道、多数の建設会社に協力して頂き、40ヶ所以上での掲示をさせて頂きました。下の写真がポスターと実際に現場の仮囲いに掲示させて頂いたものです。

『中心部ではあちこちで再開発』

札幌の中心部では再開発が次々と進められており、街並みがどんどん変わって来ています。札幌駅前の北４西３街区では高さ200m規模の再開発ビルが計画されています。駅の東側の北５西１・２には競うように高さ250m規模のビルが計画されているようです。

現在の札幌駅の東側の写真です。右手に高さ250mのビルが出現すると思われます。

札幌駅南側の現在は下の写真の通り駐車場ですが2028年にはこの景色も変わります。

下の写真はすすきのです。ラフィラは解体が終わり建設工事が始まっているようです。こちらのビルはホテルや映画館が入り2023年頃に完成予定とのことです。

札幌では1972年の冬季オリンピックの開催に併せて都心部で中高層ビルが相次いで建設されました。それからまもなく50年ですので老朽化が進み、再開発が盛んに行われている事はやむを得ない事ですが、懐かしの建物や街並みが消えてゆくことが寂しいという声もたびたび聞かれます。

無くなってしまう前に、色々写真を撮っておこうと思うこの頃です。

第30回全国女性建築士連絡協議会 福岡大会報告

連合会委員　齊　藤　裕　美（旭川支部）

「今年は集まらない事を前提に準備していきましょう」月１回開催される連合会の会議でそう決まったのが３月の事でした。今回で30回目という節目をむかえる全建女。長い歴史の中で初の試みです。

５月頃からzoom操作に慣れるために分科会担当メンバーと何度も何度も打ち合わせをし、開催一月前からは通し練習や全体リハーサルを重ねた結果、本番では特に大きな失敗も無く、無事終えることができました。

当日は朝７時半から福岡会場の設営が始まり、全国の委員が８時半から一斉にzoomに接続、８時40分から最後の練習をする予定でしたが、ちょっとしたトラブルがあり練習時間は短縮に。それでも無事９時半からの受付けに間に合い、私の担当する1-2分科会も時間通りスタートしました。

1-2分科会のテーマ、会員拡大に向けた取り組みとして、楽しみながらコミュニケーションの場づくりをしている、岐阜県の「気楽にらくだ会」と、京都府の「ランチミーティング」の活動を録画にて報告頂き、後半はリアルタイムで質疑応答を行いました。

今回どちらの報告も共通語は「気楽に」です。だれでも気楽に参加できるのはもちろんですが、京都府建築士会の、企画する側も負担にならない様に配慮しているのが印象に残りました。私も経験がありますが、SDGsにもあるように持続可能な企画運営はとても大事な事だと共感しました。

オンライン開催でしたので、コメンテーター以外の視聴者の反応が見えないのと、時間がいつもの半分ということで司会者としてはなんとももどかしく、そうこう考えている間にあっという間に終了時間をむかえていました。

午後からは被災地報告です。今回のオンライン開催で良かった点として、じっくり報告画像が視聴できるところでしょうか。

いつも大会会場は広くて画像がよく見えないことが多いのですが、目の前のパソコンだと音声もクリアで、すみずみまで見ることができます。

被災地報告で共通してみえてきたのが、かつてない規模の気象災害が年々増えていることです。異常気象災害以外にも、不正な土盛りや水道管の老朽化で１週間も断水など、人為的災害も増えています。

自分が住んでいる街が被災した時はなかなか身動きがとれないものです。建築士会として他県からの要請があれば、いつでも応援にいける体制が必要だと感じました。

被災地報告の後は、九州で三代目となる製材工場を営む杉岡世邦氏による基調講演へと続きます。

森林大国の日本ですが、林業の担い手不足の他に、建設業界の木材の需要と、山に生えている樹の需給のアンバランスが問題になっており、日本の森林は高齢化のうえに大径化が進み、買い手が少ないという現状を初めて知りました。

私も木造を扱う建築士としてお恥ずかしい話で、建築と森林は分断して考えてはいけなかったのです。共に歩んで育んで自分の住んでいる街にある山から地産地消するのが本来の建築の姿であったはずでした。現在はすっかり輸入材に頼りきりになってしまい、ウッドショックにも対応できずにいます。

杉岡氏は「建築は街の風景だけでなく、森林の風景をつくるものだということを、建築士の方には認識頂きたい」とおっしゃっていました。今の自分に何ができるか理想と現実の狭間で考えさせられた大変有意義な基調講演でした。

今回、初めてオールオンライン化で開催され、参加者が４割増となり、普段参加できなかった方も今年は大変多くの方が参加できたようです。大会終了後もYouTubeから他の分科会も視聴できるようになりました。コロナで劇的に大会開催形式が変わりましたが、今の若い世代のニーズに合っているように思われます。

アンケートも貴重なご意見を頂き、次回の開催に活かしていきたいと思います。

1-2分科会　スタッフ

福岡現地スタッフ

No 103

HOKKAIDO 建築士会 女性委員会

私の好きな場所

佐々木　弓（室蘭支部）

今年の夏が始まる頃、家族４人で引越をしました。築41年、お世話になった家は、修繕を繰り返しながら、なかなかの居心地の良さで暮らしていました。そんな中、数年前に父が病気になり、１階に寝室があった方が暮らしやすいだろうと思った事や、子供が成人したことで生活リズムが変わり、生活音や照明の光がお互いの生活に影響を与えるようになった事が『家をどうにかせねば！』と思う切っ掛けになりました。そう思い立ってから、中古物件を探し、見学に行き、資金計画をたて、家族会議を繰り返す日々が続きました。今より暖かくて光熱費がかからない家を…と思うとなかなか気に入った物件が見つからず、このまま迷宮入りか？と少々心が折れかけた時、現在の家と出会いました。この家は築54年と以前の家より13年も年上の木造２階建ての住宅でしたが、いったん骨組みまで解体してから家づくりされたリノベーション住宅でした。

解体前　→　解体後

基礎外周部に断熱材、床下に防湿コンクリートが施工されています。

施工前　→　施工後

軸間にグラスウールと60㎜の付加断熱を外壁面に施工。

グラスウール

付加断熱

階段室に上がった暖かい空気を床下まで循環させています。

床下の機械と２階のダクト

屋根の上には太陽光発電のパネルを搭載しています。

太陽光パネル

OSB合板施工

窓は樹脂サッシでトリプルガラスを使用。２階部分は結果的に新築です。OSB合板の施工で強度の心配もありません。間取の念願もかないました。寒い冬が嫌いですが、今は冬を待ち遠しく感じています。コロナの渦中でステイホームをどう楽しむかが話題だった昨今、私はとにかく家にいたいです。

お気に入りの物置です

この家を施工した社長さんとスタッフさんが組立てくれました。1000枚を超える施工写真と共にお引渡を受けた『家』が私の好きな場所です。

北見の歩き方

佐々木洋子（北見支部）

「北見」といえば、「ハッカ」・「カーリング」・「焼肉」ではないでしょうか。今回はハッカに関係の深い建物について、ご紹介したいと思います。

明治35年頃から生産が始まった北見のハッカは、昭和14年頃には世界市場の約70％を占める代表的な産業の一つでした。

「北見ハッカ記念館・薄荷蒸留館」は、北見の特産品である「ハッカ」の歴史がわかる資料館で、北見市指定文化財、日本近代産業遺産に指定されています。

内部は建築された当時の面影がわかるものが随所に残されていて、階段の手すり・ドアノブ・照明器具、そして輸出に使われていたとてもかわいい木箱等があります。別棟の薄荷蒸留館では、薄荷の蒸留実演の見学や、ハッカ油とエッセンシャルオイルを使ったクリーム作りの体験もできるそうです。

北見ハッカ記念館（右）・薄荷蒸留館（左）

北見には、令和２年10月にオープンした通年型のカーリングホール（アルゴグラフィックス北見カーリングホール）や、人口に対する割合で焼肉の店舗数が有数（「北見厳寒の焼き肉まつり」が全国的に有名）であるなど、「見る」・「遊ぶ」・「食べる」ところがたくさんありますので、コロナ禍が終息したら是非北見へお越しください。

旭川支部　まちづくりフォーラム～当麻町から学ぶ 木のまちづくり

事務局長
菅野　敏夫

北海道建築士会の皆様、旭川支部事務局長菅野と申します。

私は、昨年４月より現職に就いており１年７ケ月経ちますが、新型コロナウイルス感染拡大により全道各支部同様、当支部の事業もほとんど中止せざるを得ない状況であります。

このような状況の中、北海道建築士会まちづくり委員会主催による「まちづくりフォーラム」を旭川支部管内の～当麻町から学ぶ木のまちづくり～をテーマに、10月23日（土）初となるオンラインにて開催されました。

全道各支部から40名を超える参加があり、当支部からも10名の参加をいただき、私も参加させていただいたところです。

このフォーラムは、これからのまちづくり活動へのヒントを見つけ出せる「場」として開催されているもので、今回は村椿当麻町長から「当麻町のまちづくりについて」と題しご講演をいただき、当麻町のまちづくり戦略である、稼ぐ農業・林業、人口減少抑止と特色あるまちづくりを推進し、稼ぐ自治体、持続可能な官民連携の力について、約１時間ご説明いただき、その後、当麻町森林組合加工販売課長から当麻町の森林資源の情報提供をいただきました。

休憩をはさみ、グループワークに入り、Room１～Room４のグループに分かれ、それぞれブレイクアウトルームによりオンラインで討議を開始しました。ここでの大きなテーマとして「建築士からの提案～魅せる木のまちづくりに向けて」と定められ参加者全員が共通認識のもと、①当麻町の木を道内、道外へ発信（ブランド化）。②当麻町の木を住まいと暮らしに活かす。以上２つのテーマについてグループ討議をいたしました。

この、ワークショップの進め方が非常に面白く、各グループのコーディネーターが魅力的なアイディアを生み出すため、ブレストカードという「アイディアの泉カード」を使って進めていくもので、このカードがテーマとは全く関係のない、足跡マークだとか、クマがダンスしている絵や、飛行機の絵等々、コーディネーターから与えられたカードに沿い「架空の昨日見た夢」として発想し、30秒間で物語として組立発表するというものです。示されたカードにより一瞬にして発想する作業は、すでに私の頭は柔軟性が乏しく苦労致しましたがとても楽しいグループワークでした。

アイディア発表では、各グループで発想した内容を建築士からの提案として提言されとても勉強になりました。

ご講演いただきました村椿当麻町長様、当麻町森林組合加工販売課長様、誠にありがとうございました。

主催運営されました、清水まちづくり委員長様はじめ各委員の皆様、大変お世話になりました。

そして、全道各支部から参加された皆様お疲れ様でした。

フォーラム終了後のミーティングでは、来年はリベンジで現地当麻町で開催したいなぁ～?!とか。

実現すれば、旭川支部は皆様を大歓迎いたします。

まちづくりフォーラム・オンライン

日高支部　『北方型住宅のこれから』って！

支部長
山下　聡

会員の皆様には長引く活動自粛で先が見えず、歯がゆい思いをされておられることとお察しいたします。

ご多分に漏れず日高支部も此処しばらく、まったく活動が出来ておりません。

来年度の事業計画を検討中ですが、まずコロナ前の例年通りの計画を開催方法に留意しながら行うことになりそうです。

視点を変えて最近の様子を考えてみますと、日高地方のように田舎では、セミナー等は遠くて中々時間に余裕があるときでないと、参加する事ができませんでしたが、最近は、WEBセミナーが活況で、為になるお話を多々聞くことができる様になりました。

そんな中で先日「北方型住宅のこれから」という北海道住宅５団体シンポジウムが開催されました。日頃から聞きなれた言葉である「北方型住宅」、「きたすまいる」メンバーには登録しておりますが、実績はなく、内容もよく理解しておりませんでした。シンポジウムを聞いていて段々、なるほどと聞き入っておりましたが講演者のＦ先生が言われるには、北海道の地域工務店が、大手ビルダーには出来ない北国の家づくりの手助けをしたいという思いから始まった「北方型住宅」、確かに最近当社が手掛けている住宅は、北方型住宅の良いところを積極的に取り入れて施工しておりますが、知らぬ間に施工技術が向上していることに意識はありませんでした。例えば気密測定でＣ値0.2位が出ると、中々いいね程度でしたが、先生曰く、北方型住宅の性能は日本一ですよ！もっと言えば北欧圏の住宅にもひけをとらない性能ですよとのことでした。

なるほど、そうだったのか！と元気がでました。

私は決して、等団体のまわしものではありませんが、会員の皆様には一度「北方型住宅技術のテキスト」をご覧になられてはいかがでしょうか。

コロナで制約がある時でも、視点を変えて前向きに考えたい今日この頃でした。

令和４年専攻建築士登録申請受付のご案内

？ 専攻建築士になるには・・（新規認定の要件）

・「CPD」を行っており、過去１年間（令和３年１月～令和３年12月）に12単位を取得している
・建築士資格取得後の専攻領域の実務経歴年数が５年以上ある
・「当該領域の責任ある立場での実務実績」（要第三者による証明）が３件以上ある
※構造設計・法令専攻建築士は、一級建築士を要件としております。

◆専攻建築士認定申請について

〈受付期間〉令和４年１月４日～２月28日（当日消印有効）
〈申 請 書〉北海道建築士会ＨＰよりダウンロードできます。
〈申　　込〉申請手数料（審査手数料・登録料）の振込控えを申請書に添付し北海道建築士会へお申込みください。

◆専攻建築士更新認定申請について

既に、対象のみなさまへは、更新申請についての案内を送付しております。該当の方で届いていない方がいらっしゃいましたら本部事務局までご連絡ください。(011-251-6076)

道士会の動き

道本部の主な会議報告（11月）

◆第３回女性委員会
〈開催日〉11月６日(土)
〈議　題〉１）令和３年事業報告及び収支状況報告
令和４年事業計画及び予算要求
２）連合会事業
３）ブロック活動
４）HPの更新
５）会誌「北海道建築士」(広報Hokkaido)
６）令和４年全道大会
７）令和４年全道女性建築士の集い
８）その他　女性会員ZOOM座談会

◆第２回被災地応急支援委員会
〈開催日〉11月27日(土)
〈議　題〉１）令和４年事業計画
２）ネットワークの登録者増強と整備
３）各自治体と支部の協定締結推進
４）新規事業（報告）
５）その他

◆第４回総務・企画委員会
〈開催日〉11月25日(木)（web併用）
〈議　題〉１）令和３年第４回理事会議案
２）今後の全道大会の運営等（委員長提案事項）
３）その他

◆第３回事業委員会
〈開催日〉11月27日(土)（web併用）
〈議　題〉１）令和３年事業報告（10月末）及び収支決算見込み
２）令和４年事業計画(案)及び収支予算(案)
３）令和３年「北海道建築士会特別活動費」活動事業報告
４）その他

本部の主な行事予定（12月）

２日(木)	四役会議
２日(木)	二級・木造建築士試験合格発表
４日(土)	第３回情報委員会（web併用）
４日(土)	第３回まちづくり委員会
10日(金)	第４回理事会
11日(土)	女性委員会座談会（web）
11日(土)	青年委員会
24日(金)	一級建築士試験合格発表

関係機関等会議参加予定（12月）

４日(土)	ヘリテージマネージャー、コーディネーター修了式
13日(月)	東北ブロック会（秋田）　上記　高野会長

講習会・セミナーのご案内（12月）

監理技術者講習

15日(水)　札幌市

令和４年会費関係スケジュール

【令和３年12月31日迄に退会届提出の場合】
R.3年 ｜ R.4年会費 発生しません
～R3.12.31 退会届出提出

【令和４年１月１日以降に退会届提出の場合】
R.3年 ｜ R.4年会費 発生します
R4.1.1～12.31 退会届出提出

令和４年会費請求を11月中旬に郵送いたしました。
本会の会費は、年会費（１月～12月）の一括納付（会費規則第２条１項）令和４年３月31日迄となっております。
年の途中で退会された場合でも１年分の会費が発生いたします。都合によりやむを得ず退会される場合、12月31日迄に退会届を所属支部へご提出をお願いいたします。
※会費の滞納が続きますと会誌の発行、会員としての特典が停止されます。

【お問合せ先】(一社)北海道建築士会　TEL　011-251-6076

ＣＰＤ認定プログラム(11月認定)

◆2021年第１回フォローアップ講習会 in 小樽
《日程及び会場》12月11日(土)　13：30～16：50
《単位数》　３単位
《問合せ先》　北海道文化遺産活用活性化実行委員会
TEL　011-281-7736

“会員専用ページ”でオンデマンド配信中！

■**視聴方法**：北海道建築士会ＨＰの上記「会員専用ページ」をクリックしパスワードを入力
■**12月パスワード**：Fur014

編集後記

気が付けば４期８年携わってきた会誌も今号が最後の担当となりました。思い起こせば、情報委員会に所属した初年に全道大会「旭川大会」があり、ここから号外の発行が始まりました。
委員長を務めたこの４年間は函館で開催された全国大会での号外発行で燃え尽き症候群を発症。大会中の記憶がほとんどないほどの忙しさの中、完成させられたことは本当に良い経験となっています。その後はコロナ禍でまともな活動ができないまま任期を終えることになってしまいました。
最後に、長きにわたり御支援御協力いただきました会員の皆様に感謝申し上げます。

情報委員長　斎藤　勝哉（旭川支部）

情報委員会委員長／斎藤　勝哉
副委員長／早川　陽子・森　勝利・前田　繁
委　員／柏倉　晶憲・村山　賢司
片岡　哲二・境谷　香奈

北海道建築士　No.292号
印刷　令和３年11月／発行　令和３年12月
編集・発行　一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西５丁目11番地 大五ビル
電話　(011)２５１－６０７６番
URL　https://www.h-ab.com/
印　　刷　株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水２条１丁目
電話　(011)８１１－７１５１番